

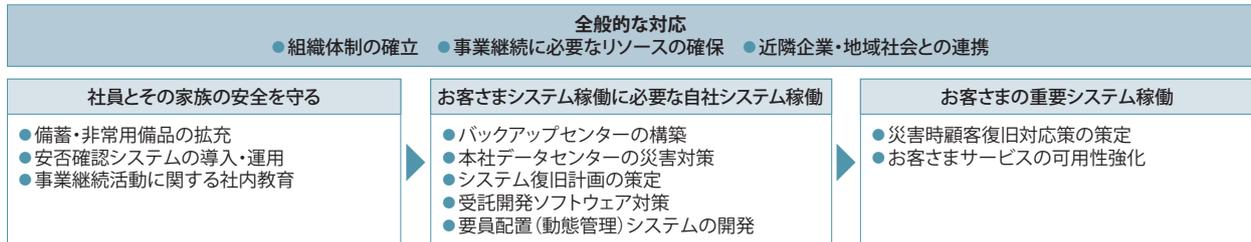
## 事業継続への取り組み

大規模災害の発生時などにおいても、お客さまの情報システム稼働に向けた事業活動を継続する社会的責任を強く認識し、2005年よりグループ企業全体としての事業継続の取り組みを推進しています。

### 事業継続管理フェーズへの移行

関連領域ごとに策定した事業継続計画を、より実効性の高いものにしていくために、現在では「事業継続管理」フェーズの活動を進めています。また、当初からの対象リスクであった地震などの災害対策も進み、現在では新型インフルエンザまで範囲を拡大した取り組みを行っています。

#### 事業継続計画の概要



### 全般的な対応

#### 継続的な訓練実施

事業継続計画の実効性を高めるために、さまざまな訓練などを通して対策の見直し・確認を継続的にを行っています。具体的には、災害対策本部の机上訓練にて、有事における企業の意思決定に関わる共通認識を高めるとともに、課題事項の抽出を図っています。また沖縄県で同時運用している第二データセンターや関西に設置されているバックアップ物流センターにおいても、非常時を想定した切替訓練などを実施しています。さらに、社員の災害対応力強化に向けた取り組みとして、安否確認や徒歩帰宅訓練を定期的に行っています。

一方、大規模災害時に停電で電話が不通の状況を想定し、高層の本社ビル内における縦方向連絡手段確保のための、簡易無線のトランシーバと中継機を導入し、利用訓練を実施しています。



災害対策本部机上訓練



第二データセンター(沖縄県)



徒歩帰宅訓練の実施

### 社員とその家族の安全

#### 新たな脅威——新型インフルエンザへの対策

新型インフルエンザ発生の危険性が高まりつつあるなか、社員一人ひとりを対象としたガイドライン、会社としての行動計画を策定し、グループ会社内に浸透させています。また、海外地域への中長期出張者に対しては、産業医から処方された抗ウイルス薬を携行するよう徹底しています。

万一流行が確認された場合においては、社員と家族を守るために、また社会全体としての感染拡大を防ぐという観点から、外出・出社しないことが望ましい事態が想定されますが、そうした対応が可能となるよう、在宅勤務制度の導入を推進しています。

#### 備蓄ボックス／非常用品の常備

オフィスビルのエレベータにおいて大規模災害時に発生し得る「閉じ込め」に備え、本社ビルエレベータ内に非常用備蓄ボックスを設置しました。また、各フロア内においても、非常用品や救急セットを常備しています。



エレベータ内備蓄ボックス



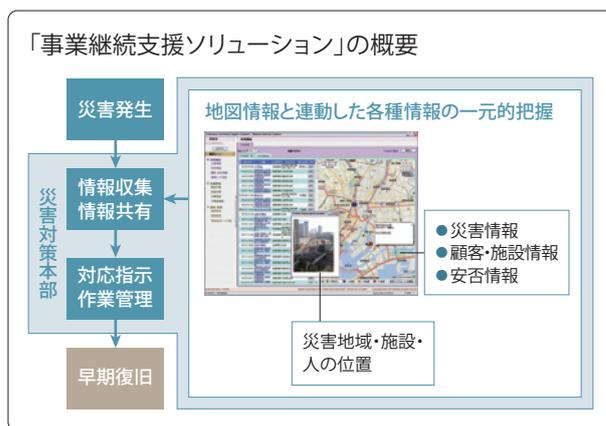
救急セットの常備

## お客さまのシステム稼働に向けて

### 事業継続支援ソリューションの開発・導入

災害発生時、お客さまのシステムおよび自社システムの早期稼働を可能とするために、事業継続支援ソリューションを開発し、自社で導入しています。本ソリューションでは、災害時にGPS付き携帯電話を持つ現場のサービス要員から収集した「安否情報」、「現在地の被災状況」などを管理画面上に一元表示。地図情報やお客さま情報、外部からの災害情報などと合わせて、迅速で的確な要員配置や対応指示、進捗管理を可能にします。ユニアデックスでは2007年より本格的に本ソリューションの企画・開発を進めるとともに、2008年3月からはサポートサービス部門における試行導入を実施。今後は試行を通じて培われたノ

ウハウや現場ユーザーからの意見をもとに機能を追加し、災害対応ソリューション商品として拡張させていく予定です。



## VOICE 事業継続支援ソリューション 企画/ユーザー部門それぞれの立場から

### 企画部門

#### さまざまな災害関連情報が“一覧できること”を重視

本ソリューションを企画・開発するにあたって、機能面においてはさまざまな災害関連情報を管理者・利用者双方から“一覧できること”を重視しました。サービスレベルの観点では、携帯電話側との同期をスムーズに取れることを目標に開発を進めてきましたが、この点についてはまだ向上の余地があると考えています。また、本ソリューションは「事業継続」とともに「社員を守ること」が主たる目的ですが、中長期的には「社員の家族の安否確認」まで行えるような仕組みも考慮していきたいと考えています。

地震や台風、新型インフルエンザなどさまざまな災害の発生リスクや社会動向に応じて、事業継続のあり方も変わっていくものと思いますが、今後はITを情報インフラとして使うだけでなく、そこで行き交うさまざまな情報そのものを効果的に分析・活用していくことが、一層求められるようになっていくと思います。



ユニアデックス  
商品戦略部マーケティング室  
黒木 稔也、村上 義朗



マネージドサービスセンターにて

### ユーザー部門

#### 現場のサービス部門ならではの視点を活かして

私が所属する部門では、4年前からサポートサービスにおける要員管理システム「サービス支援システム」を利用しており、現在は「事業継続支援ソリューション」も並行して試行運用しています。実際に使ってみて、地図上にさまざまな情報が一元的にビジュアル化され共有できることや、自分の周りの状況をリアルタイムで把握できることは非常に大きいことだと感じています。現在試行段階にあるソリューションなので、機能面やサービスレベル面で気づいた点があれば、現場のサービス部門の視点から、いろいろと提案していきたいと思っています。

一方、我々現場部門としても災害発生時にいかに対応すべきか、どのような情報をもとに何を判断する必要があるのか、日頃から意識を持っておくことが大事になります。“いざ”というその時に、冷静かつ適切な動きを取れるよう準備しておくことが、本システムを使う側の使命ではないかと考えています。



ユニアデックス  
サービスビジネス  
オペレーション統括部  
サービス事業企画管理部  
竹下 佳宏